

# Ridge Line ボルダリングジム

支援内容

- ○若者・女性・シニア創業チャレンジ支援事業
- 富山県よろず支援拠点



中小企業支援事例集

## 富山にIターンしてボルダリングジム創業 五輪と支援を追い風に、利用者をのばす!



ジムの内観。倉庫の壁面に、手足をかける「ホールド」が設置できるように内壁を設置し、壁いっぱいにホールドを展開している。



子ども向けのコース。コースを追いやすくするために動物や果物のイラストを補助で使う。

兵部智代さん



国際大会等で注目されたのを機に、ファンや競技者を増やすことはよくある。昨年のラグビーしかり。4年前に、東京オリンピックでの追加種目に決まったスポーツクライミングもそうだ。中でもボルダリングは、未経験者も楽しめることから競技者も、プレーのためのボルダリングジムも増加。平成20年には全国で96カ所だったジムが、昨年5月には476カ所になり(日本山岳・スポーツクライミング協会調べ)、競技人口(愛好者)は60万人になるのではないかと推定されている。

そのジムの1つが富山市の「Ridge Line ボルダリングジム」。代表は兵部智代さんで、オープンは平成28年9月である。

### 富山にきて創業の思いが芽吹く

大学時代は、社会人山岳会に所属し、トレーニングの一環としてボルダリングに取り組んだ兵部さん。卒業後、一時遠ざかったものの、ご主人の仕事の関係で愛知へ異動になった平成21年にボルダリングを再開。「さらに2年ほどして今度は滋賀へ転勤となり、そこで通ったボルダリングジムが夫婦で運営されていたところから、仕事としてのジムの運営に興味を持つようになった」(兵部さん)そうだ。

平成27年、ご主人は再び異動に。今度は富山だった。 学生時代、立山連峰に登った経験のある兵部さんは、「山 の近くに住みたい」と思っていたそうで、富山への移住を 機に"ボルダリングジム運営の種"を芽吹かせたのだ。

兵部さんはまず、「創業支援」などをキーワードにネットでの検索を続け、当機構の存在を知ることに。サイト内を見ていくと、「富山県よろず支援拠点」のコーナーに「創業や経営の相談にのります」とあった。そこでさっそくコーディネーターとの面談のアポイントをとった。

「まずはボルダリングの説明から始めました」と兵部さんは微笑んだが、対応した2人のコーディネーターはその ビジネスプランに興味を示した。当時は、「東京オリンピッ ク」でのボルダリングの正式採用は決まっていなかったが、政府系金融機関での相談員の経験のあるコーディネーターの1人は、「事業資金はその金融機関に相談してみたらよい」とアドバイス。また兵部さんのビジネスプランを分析し、市場のニーズがあり、状況把握もしっかりしているからうまくいくだろう、と背中を押したのだ。

#### 「よろず支援拠点」で資金調達を相談

「その後、政府系金融機関を訪ねてボルダリングジム運営についてプレゼンテーションしました。後日、担当の方は『協調融資の形でご協力します』と検討結果を伝えてくれました」と兵部さんは当時を振り返り、「協調融資のもう一方は、主人の給与振込先の銀行に決まり、2行が半分ずつ融資することで話がまとまりました」と続けた。

もちろん当機構も支援することに。「若者・女性・シニア創業チャレンジ支援事業」(平成28年度)の採択を通して、ジムの家賃や人件費等の事業費の一部を助成し、兵部さんの創業の夢を後押しした。

さっそく倉庫を借り、改装を開始。Facebookに進捗状況 を紹介しながら平成28年9月の開店を予告した。そのフォロワー数は2,000名を超え、オープン当初から経営を安定 させるために必要な来店者数確保のメドが立った次第だ。 またホームページの開設やオープン告知チラシも作成。フリーペーパーに開店記事(無料)を掲載してもらうなど、あまり予算をかけなくとも集客は順調に進んだようだ。

#### 順調に集客できて……

「私がここで目指したのは、初心者から経験者まで、年齢や性別にかかわらず誰もが楽しめるジムです。家庭や会社、学校に加えて、もう1つの居場所になれるような居心地のよい空間づくりを心がけてきました。開業から3年経ちますが、当初から通ってくださるお客様や、県外からのお客様も多く、たくさんの方々に支えられていることを感じます」

好調な滑り出しの背景を語る兵部さん。開業前には、経営のシミュレーションをいくつかのパターンで行い、「ギリギリの経営ライン」として平日の来店者数をX人、休日の来店者数をY人と想定し、収支バランスの予測を立てたそうだが、3割ほど上回るペースで来店者数を確保できた様子。メンバーズカードの発行枚数は、12,000枚を超えたという。

Ridge Line (リッジライン) には、稜線、尾根筋という意味がある。 兵部さんのボルダリングジムは、稜線の向こうの崖ではなく、 こちら側のなだらかな草原にいるようだ。



「ルーフ」と呼ばれる地面と水平な傾斜。足の置き方と体の使い方を習得すると、 楽に登ることができる(実際のアルパイン・クライミングにはない傾斜)。



「富山は、山があって海もあって、子育て支援 や創業支援も充実している」と語る兵部さん。



壁には「課題」というコースが 設定されている。同じ色、形の テープで指示されたホールドの みを使って登る。課題の難易度 はテープで色分けされており、 上の色の難易度は「やさしい」。